

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）ニホンダイガク	フリガナ）ショウガクブ	フリガナ）タカボゼミナール
日本大学	商学部	高久保ゼミナール

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）チームジェイアイシー	フリガナ）ジャン ナン	5	無
チーム JIC	姜 楠		

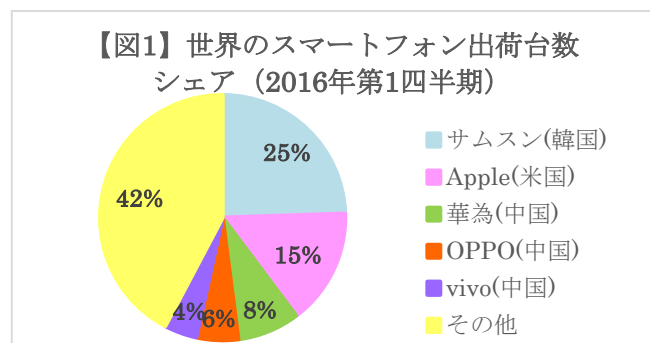
研究テーマ（発表タイトル）
華為の次世代構想 ～ソニーモバイルコミュニケーションズの事例を参考にして～

※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

右の図から解るように、日本において知名度は低いですが、世界的に売上を伸ばし、成長し続けている中国スマートフォン企業。私たちは、その中でも華為（ファーウェイ）に注目し、急成長の理由を研究してきた。

華為の成長の特徴として、「R&D に力を入れていること」と、「豊富な人材」が挙げられる。しかし、これらはかつて力を持ち、現在衰退の一途をたどっているソニーモバイルコミュニケーションズ（以下、ソニーモバイルとする）の特徴と似ている。そこで、このままでは華為は、ソニーモバイルと同じ道をたどるのではないかと仮説を立て、調査・研究する。



2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

華為は 1987 年に設立され、通信機器の研究開発及び、製造などを行っている。現在はスマートフォンの製造販売で名を知られており、その出荷台数はサムスン、Apple に次ぐ 3 位である（図 1 参照）。2005 年に日本法人（ファーウェイ・ジャパン）を設立し、日本での活動を本格化させた。大手キャリア向けの端末はもちろんだが、2015 年から、日本国内において、条件付での SIM ロックの解除が行えるようになり、SIM フリー端末の販売によって国内での知名度を上げることを予測する。

一方、ソニーモバイルは日本の大手家電メーカーであるソニーが 100% 出資している携帯電話メーカーである。途中、エリクソン（スウェーデン）との合併事業を展開していたが、2012 年に、エリクソンが携帯電話事業から撤退したことで合併関係は解消された。2011 年から 2013 年までは売上を伸ばしたが、その後は並行と、衰退をしている。

3. 研究テーマの課題

急速な成長を遂げてきた華為の特徴が、現在、伸び悩んでいるソニーモバイルと似た特徴を持つことから、新たな企業が台頭し

た際に、ソニーモバイルと同じ道をたどるのか、否かについて答えを出す。特に2社の比較について、売上や出荷台数はもとより、実際の

研究を進める中で、日本と中国の企業の特徴を理解していき、そこから得られた発想を基にして、次世代のビジネスモデルを考える。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

2社を比較分析し、どのような事業展開を進めている（きた）のかを明確にする。ソニーモバイルに関しては、国内に文献をはじめとした資料が多くあることから、先行研究を参考としていく。一方華為は、文献だけでは資料集めが困難であると予測し、中国人のコネクションを活用した研究方法を取り入れていく。

明確かつ、科学的根拠が示せるよう、参考文献を活用し、視覚的な理解が得られるようなグラフを用いる。さらに、企業訪問などの活動を取り入れ、研究に独自性を持たせることを目標とする。

特に、華為においては、通信機器端末の販売、製造だけではなく、高い技術力を駆使した、ICT、クラウド、ソリューション事業にも力を入れており、他業界との協業に取り組んでいることから、ビジネス・エコシステムへと展開する可能性があることも視野に入れて、研究を行う。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

アンケートを実施した。所有するスマホ機種や購入に至った理由を調べるためアンケートを実施した。（しかし、調査対象の年齢層が偏っていたため、より広い層の人に対して、再度行う予定）

6. 結果や今後の取り組み

結果としては、華為はソニーと同じにはならないようエコシステム作って、新しいビジネス構想をしている。結果をより科学的に根拠付けるために、今後アンケートや、企業訪問を実施し、見聞くを深めていきたい。

7. 参考文献

ソニーモバイルコミュニケーションズ公式サイト（<http://www.sonymobile.co.jp/> 2016年9月27日最終閲覧）

ファーウェイ・ジャパン公式サイト（<http://www.huawei.com/jp/> 2016年9月27日最終閲覧）

IP Force(<http://ipforce.jp/Data> 2016年9月27日最終閲覧)

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限りません。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。